1. 評 価 報 告 概 要 表

［認知症対応型共同生活介護用］

【評価実施概要】

事業所番号	1970101232
法人名	医療法人　笹本会
事業所名	グループホームおおくにの家
所在地	〒　400-0053　甲府市大里町5323 電話番号　055－220－2111

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	山梨県甲府市北新1丁目2－12号		
訪問調査日	平成19年11月30日	評価確定日	平成20年2月22日

【情報提供票より】平成19年11月16日 事業所記入

（1）組織概要

開設年月日	平成17年7月1日				
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18	人	
職員数	20人	常勤	12人	非常勤	8人　常勤換算　0人

（2）建物概要

建物構造	木造　造り
	2　階建ての　1　～　2 階部分

（3）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（平均月額）	45,000　円		その他の経費（月額）	0　円
敷　金	□有（　　）		■無	
保証金の有無 （入居一時金含む）	■有（　100,000　） □無		有りの場合 償却の有無	□ 有 ■ 無
食材料費	朝食	ー　円	昼食	ー　円
	夕食	ー　円	おやつ	ー　円
	または1日当たり　1260　円			

（4）利用者の概要　平成19年11月16日 現在

利用者人数		18 名	男性	2 名	女性　16 名
要介護1		5　名	要介護2	2　名	
要介護3		7　名	要介護4	3　名	
要介護5		0　名	要支援2	1　名	
年齢	平均	85 歳	最低	0　歳	最高　92 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	笹本整形外科・笹本歯科・小林内科小児科医院・藤原医院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】作成日　平成19年12月3日

この先、甲府市の中心地となるであろう振興住宅地にあるグループホームおおくにの家。広大な敷地に通所介護、看護、居宅、リハビリティーション、など多くの施設を併設している。真っ赤に紅葉したドウダンつつじの垣根を通り玄関に入る。「いらっしゃいませ」と利用者が挨拶で気持ちよく出迎えてくれた。広いフロアーではテーブルを囲み　みんなで献立と買い物の相談をしていた。利用者がお茶をさしてくれ椅子を出し気遣い、我が家同様の接待をする。「何を食べようか？」と頭を働かせ考えたり、意志意欲の引き出しと見守りで自立支援があちこちに見え理念にそった生活を垣間みた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①

前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）

意見箱の設置・・・家族や外部の意見を聞くために職員の視界を避け下駄箱の上に置く。緊急マニュアル・・・全員で防災について勉強会を開きマニュアルに従い実践訓練を昼と夜に行う。消防署から来てもらい避難訓練をする計画もある。

今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）

自己評価の記入がきちんとされていなく解らなかった。自己評価は管理者一人で記入するのではなく職員みんなで共有し取り組みをするとよい案が浮かぶ。改善シートを解りやすく別に綴り、改善点を克明にしておくと資質向上になる。

重点項目②

運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）

2ヶ月に1度　運営推進会議をチームのメンバーで行う。施設の現状を説明したり希望も聞き入れ幅広い会議をする。1年に1度の利用者と家族をまじえての旅行はみんな楽しみにしている。

重点項目③

家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）

家族の意見箱を設置の他、月に1度のお便りを出す。利用者の生活状況や行事、細やかなエピソードまで担当者が書いて送り、家族の信頼を得ている。

重点項目④

日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）

自治会に加入しているので回覧板が廻ってくる。納涼会に招待したり婦人会の味噌造りに参加する。健康体操教室なども近所の人と一緒にやる。顔みしりになり地域住民としての仲間づくりができている。

2. 調 査 報 告 書

事業所名：グループホームおおくにの家

（ ▒ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	多機能性地域密着型グループホームで近隣の利用者が多い。その人らしい自立支援で残存能力を活用し良く笑い、良く食べ、良く歩くを実践している。介護者は見守り支援でさりげないサポートに工夫している。	○	理念の掲示がない。ひとことで解りやすい表示をしておくと来客にも理解できる。家族が来て理念を確認し安心できる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員全員で1ヶ月に2回の部会を開き、利用者の自立支援に向けての改善点や生活状況を共有し、ケア方針や理念等を確認している。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の通知で老人会のお祭りに参加する。こちらからも招待をして納涼会を行う。地域の住民として行動を共にしたり顔なじみの関係づくりをしている。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営推進会議で自己評価の改善にむけての取り組みを検討する。意見箱の設置や防災訓練の実施など指摘事項を前向きに見つめ直し質の向上を図る。	○	素晴らしい改善や取り組みが伺えるが改善シートが解りにくい。何処をどのように改善したと結果に繋がる改善ノートを別に綴り置くと解りやすい。より良い質の向上に期待する。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度運営者、管理者、職員全員と家族会役員会議を開く。利用者の自立支援に向けての改善点や生活状況を協議する。外部評価での報告をして改善点も検討し話し合う。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政担当者が施設に来ることはないが連絡事項や研修会の通知が届く。併設のリハビリテーションや介護、看護センターで地域高齢者と交流をしたり巾広いサービスの向上をしている。		
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に1度家族に担当者がお便りを出す。生活状況や献立、行事、日記に事細やかな出来事を書き家族から大変好評を頂いている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族がホームの利用料を毎月支払いに来た時や面会の時に意見や要望を聞く。職員の視界を避けた意見箱も設置してある。旅行や家族会があり気軽に声をかけて話してくれる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の異動はあまりない。異動や退職は事前に報告がある。法人内の職員は顔みしりが多く馴染み深い関係がある。結婚での退職や夜勤不可など利用者の理解を得て不安を招かないようにしている。		
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内に教育センターがありプリセプターの基で研修を受けてから配属される。認知症やリスクマネージメントの部会を月2回行う。常に理想的な教育レベル向上に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会主催の認知症の研修会や講習会に交代で出席している。受講者は会議で発表し勉強の成果を職員で共有している。また他の施設に実習に行きこちらでも受け入れ交流といった取り組みをしている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居が近づいたら慣れるように昼中入居を行う事がある。在宅、訪問、ショートを利用していて入居する利用者もいる。職員の顔なじみが多く安心して生活できるように工夫している。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「何をたべようかぁ」と希望を聞き考える時間(思考力)食欲の誘い。買い物に出る(緊張感)運動など本来の個性や力を発揮。親子のような関係で家事を利用者から学ぶ職員姿勢が伺える。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当者は、いつも家族と同様に接している。利用者の趣味や行動を把握した上で何を望んでいるか希望を聞き入れる。ルールにとらわれる事なく普通の生活が出来るような支援に重点を置き利用者の意思・意向を優先している。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	職員会議でモニタリングをして介護計画書を作成している。担当者は利用者と家族の希望を聞きプランを作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は利用者の状況の変化に応じて見直しを行う。平常時は3ヶ月に1度の見直しをしている。担当者が作成し、その後、介護者全員で検討会を開き家族の意見を入れ作成している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の家族の行事(冠婚葬祭)の時、外出をする事がある。介護者が付き添いで外出したりもする。併設の健康体操教室を近隣の高齢者に交じり利用する事もある。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には家族対応である。薬がなくなったり、緊急時は職員が付き添い病院に行く時がある。理事長が医師なので臨機応変に受診して健康管理に努めている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームとしての看取りの方針は確立している。また、より具体的に利用者や家族の要望に添った支援と終末期のケアの実践に向け、看取りや終末期の過ごし方に対する思いについて本人・家族へ意向調査を行い、実際の場面に活かせるよう準備を進めている。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 １．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	「○○さん　お部屋に入ってもいいですか?」と管理者は声をかけて部屋を拝見させて頂く。事前に家族の了解を得ていた。トイレも事前誘導で失禁をする利用者はほとんどいなく自尊心を尊重した生活をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝、みんなで献立の相談をしていたが、ひとり食事をしている利用者がいた。目の見えなくなった利用者が懐中電灯を離さない。これで明るく照らせばきっと見える!その思いも共有する。言葉を交わし能力を引き出す支援に徹する介護をしている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立の相談、料理の本を開き、アレコレ相談をする。当番が日付を言い「いただきます」のあいさつの後、やきそばの味、柔らかさなど話しながら楽しく食事をしていた。配膳や後かたづけを慣れた手つきでしていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	時間に制限なしで、いつでも入浴できる。寒い冬は特に寝る前に温まりすぐ寝床に入れる。ひとりひとりの自由を尊重し、見守り介護入浴で生活している。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	農作業をする方、手芸や家事が好きな方、利用者の個性を活かして生活している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	併設のリハビリテーション施設に健康体操教室に行ったり、公園に散歩(隠れ見守り)家族旅行、お花見、ドライブ、紅葉狩りなどその時季に会わせた行事もしている。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	「いらっしゃいませ」利用者のお出迎え。昼中は鍵をかけず利用者が家と同じように出入りしている。お茶を入れ、椅子を出して接待している。玄関からその人らしさを尊重した自立支援の取り組みを感じた。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年3回、防災訓練を実施。その内1回は夜の訓練を行う。2回のユニットは非常階段での訓練をしている。消防署立ち会いでの訓練を計画している。自治会の協力体制もあり、緊急マニュアルも解りやすく提示されている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食欲の進まない利用者は、残飯をチェックして記録する。とくに高齢者は脱水症をひきおこしやすいので水分補給に気をつけている。栄養面を献立でバランスに気を配り健康チェックを欠かさないようにしている。		
２．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓から外を眺めると色鮮やかな紅葉が見られる。外で元気良く遊ぶ子供たちを見たりする。広いリビングではトランプを楽しむ人、昼寝の人、テレビを見る人など自分の意志で行動している。台所、トイレは広く最新式システムが導入され、きれいで気持ちよい居心地の良さを感じる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	備え付けの道具があるが思い出を部屋に置き独自の部屋作りをしていた。仏壇に、ご主人の写真を飾る人、家族の写真を貼る人、それぞれ特徴ある部屋で居心地良さそうな自分なりの生活をしていた。		